資源環境経済学特別演習 II 議事録（１２　月）

２０１１　年 度 第 １ ０ 回

報告題名　農協内人的ネットワークの形成	
報告者　山口　祥平 （**所属分野**）　フィールド社会技術学	**日時**　12　月　8 日　午後３時～ **場所**　第二講義室
座長　渋谷俊	**議事録担当者**　泉井 亮平

出席者

長谷部、安江、米澤、米倉、冬木、高篠、伊藤、石井、阿部、韓、大友、小賀坂、スチン、八木、水木、宮里、易思、威廉、王、金、タンボウニ、中村、堀、林、泉井、金、黄、今井、渋谷、畠山、室井、徐、王、伊坂、菅野、佐藤、西田、丸林、門馬

報告要旨

近年、農業協同組合の組織体制、今後の役割などについて様々な議論がされている。しかし、そのような議論の中に農協職員の考えが十分に反映されているとは言えないのではないかと考えた。よって、本研究では農協職員を主体的に捉え、実際に農協職員が農協組織についてどのような問題意識を持っているのかを明らかにし、農協内人的ネットワークの形成過程から発生する問題点、組織風土として人的ネットワークが受け入れられるかなどについて検証する。

質疑・応答

渋谷：考察の中で、農協が新たな人的ネットワークを受け入れる可能性が高いと言われているが、それはアンケート調査や掲示板の、どういった結果から言えるのか？

山口：ワードで一枚分書いていただいた方もいた。熱意というものをどのように分析するのかは難しいことだが、「議論したい」という思いがかなり強く現れていて、（スライド 22 の）②のアンケートの「議題としてどういったものがありますか」についても 60 件以上来ているということは、発言といった点に目を向ければ、十分ネットワークを構築できる可能性があるのではないかと考えた

八木：スライド 22 の議題の中では、農協内の問題が多いと思いますが、日本農業の問題を話しあおうという考えはないのか？

山口：（スライド 22 の）⑧番、農協の存在意義となると、もちろん農業も入ってきますから、こういった所で議論できるのではないかと考えている。また事業について議論するということはもちろん農業についても議論するという話になると思う

米倉：最初の問題の建て方は、人的ネットワークのことを問題にしている。そこで、出てきたアンケート結果から人的ネットワークに関する議論が、どう見えてくるのか？といったインプリケーションは得られているのか？

山口：詳細な分析はこれからではあるが、実際に掲示板を行った上で、ネットワークという部分がアンケートよりも見えてくるのではないかと考えている

米倉：どのような情報を得られれば、あなたの議論と分析が進むのか？概念図のような動きを確認したいといったときに、どのような結果・情報が得られれば良いのか？

山口：私は段階を区切っていて、第一段階をアンケートといった位置づけで捉えている。掲示板をやってみてある程度の年代差を含めたグループがもし出来れば、ネットワークが形成される可能性はかなり高いと考えられる。アンケートの目的の一つは掲示板の議題を立てたかった。どういった問題を農協職員の方々が考えているかを吸い上げたかった。掲示板上でその議題についてある程度の人が集まってくる様子が見られれば、人的ネットワークの形成の可能性はかなり高いと考える

米倉：仮にネットワーク上で議論があった場合、それが具体的な組織の中身に反映されるかというものとは全く別の問題のような気がするが？

山口：おっしゃるとおりだと思う。このネットワークがどのくらい活用されるということは未知なことではあるが、ただ今回は実験として、こういった web を使って、はじめは擬似的なネットワークであっても、出来るのかどうかを検証してみたいと考えている

冬木：ネットワークは匿名だとしたら、Facebook のように実名でやったほうが、人的ネットワークはできやすいのでは？オンラインとオフラインでネットワークを構築させる別の仕掛けが必要になるのでは？

山口：掲示板上では全くの匿名であるが、最終的に会議を想定しているということで、私のところには（スライドの概念図の）④のところで個人情報を送ってもらっている。だから誰が誰であるかは把握している。匿名性をとってしまうと、掲示板に入り込む垣根が変に高くなって嫌だなと、上司やそうでない人との関係なども見たかったので、あえて完全匿名性にして私だけが情報を抑えている、という形がよいと考えている

冬木：農協の人的ネットワークにはいろんな仕掛けがあり、既存のものもあるのではないかと思うが、そういうものも一緒に加味しながら考えるという考え方はどうなのか？研修などもあると思う
山口：私の経験上、研修には人は集まるが、現場に戻ったときに議論する相手がいなければ、熱意なども失われてしまうのではないかと考えられるが、そんなときにネットワークが活用されれば相手の動向等もわかっていいのではないかと考えている
冬木：民間と違うのは、労働組合に対してゆるい点。労働組合に参加していてもやりやすい環境があり労働組合に入ることによって幹部になれるといったこともあり、労働組合のネットワークというものも考慮に入れたほうがいいのではないか？
山口：わかりました

伊藤：この実験の持つ意味をクリアーにするためにも、web で作るネットワークと、すでに持っているネットワークの持つ意味を比較したほうが良いのではないか？
山口：わかりました、ありがとうございます。

安江： web システムを使った上で、特定された人を知らない状態での人的ネットワークをつくるという有効性をみる、web システムという技術を導入することの評価なのか、開発し、これが有効だから使ったほうがいいという方向に持っていくのか
山口：後者です。出来るかはわからないが会議を想定していて、その手段の 1 つとして掲示板を使った。その会議に集めるまでのグループ形成を擬似的にではあるが web 上で出来ないのかと考えた
安江：だが匿名でやるということは、人のインパクトの話をしているのか、技術に対するインパクトの話をしているのか、研究の落とし所として、web システムを導入する、web システムという技術自体の評価をするのか、農協職員のネットワークを創りだすことで人の意識改革をするという落とし所なのか
山口：後者です
安江：匿名だと、熱意があるとかはチェックできないのでは？嘘をついてもいいわけであって、それのチェックの仕方は？
山口：それは通常の会議でもできることではないか
安江：それはできないのでは？web で匿名でやるということは、誰と話しているかわからない状態で話をするということであり、自分を頑張っている人と演じてもいいわけである。そういったときにやる気がある、やる気がないといった人のインパクトはどのようにチェックできるのか？
山口：演じているといわれれば、チェック機能はないと思うが、個人名を私に送ってきてまで、議題に対して自分の貴重な時間を使って、問題点について書きこむ。そこまでして演じるならば、素直に熱意として受け取っていいかと思う
安江：科学論文を書く上で、どのように今のことを科学的に検証していくのか、というところが今の話だと論破できない。
山口：通常の会議で演じていることと web 掲示板で演じていることの違いがよくわからない
安江：通常の会議では目の前にいる人物の個人名がわかるが、web 上では全くわからない。Facebook などと違って匿名ということはそこに仮想現実を創り上げて、好きなように演じられる。

山口：例えば第三段階が実現した場合、そのときには私は誰が誰であるのかを抑えているので、そこでの違いというものは現れてくるのではないかと思う
安江：**個人名等が全部わかった掲示板とのギャップとかはチェックしないのか**
山口：考えていない。今回掲示板がどうなるかは全く予想がつかなかったので、とりあえず何とか参加してもらおうとしたのが頭にあった。そのため匿名性はまず第一に持ってくるべきだろうと考えた。ただ最終的にはグループを考えているために（個人）情報は送ってくださいということにした。このへんがちょうどいい落とし所だと考えてスタートした。
安江：**安直に考えれば、ギャップがあるのかないのか、山口さんがグループの情報を把握しているのならば、小規模でもその人達を呼んで、web と同様にやってみるというものも検証の一つであると思う。**
山口：わかりました。考えてみます

長谷部：**今の段階で人的ネットワークと言えるのか？**
山口：言えない。会議をしてからです
長谷部：**その時にどのように検証できるのか、そこまで持ち込むためのシステム作りと捉えていいのか**
山口：はい

高篠：**幾つかグループができたら、一つのグループは web 上で匿名でやってどのくらい参加してくれるかを見て、他のグループは直接会うようにして、どのくらい参加してくれるのか、といったことを見るとネットワーク形成の難しさの要因としていくつかあげられるのでは？実験研究としては面白いと思います。**
山口：匿名と実名の対比ということですね？わかりました、ありがとうございます